

外傷サーベイランス委員会会議録

会議体の名称	第10回外傷サーベイランス委員会
事務局(担当課)	セーフコミュニティ推進室
開催日時	2015年7月9日(木) 10時30分～12時05分
開催場所	豊島区役所本庁舎5階 508会議室
議事	<p>1 外傷サーベイランス委員会について</p> <p>(1)委員委嘱、委員紹介</p> <p>(2)委員長の選任について</p> <p>(3)外傷サーベイランス委員会の機能について</p> <p>(4)SC活動におけるデータ収集の状況について</p> <p>2 繁華街の安全について</p> <p>・繁華街の安全対策委員会</p> <p>3 ドメスティック・バイオレンスの防止について</p> <p>・ドメスティック・バイオレンスの防止対策委員会</p>
出席者	<p>1 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 市川 政雄</p> <p>2 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 富尾 淳</p> <p>3 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 白石 陽子</p> <p>4 池袋警察署生活安全課長 戸松 弘治郎</p> <p>5 豊島消防署救急技術担当係長 奥田 修士(おくだ やすし)</p> <p>6 豊島区池袋保健所長 原田 美江子</p> <p>7 豊島区セーフコミュニティ推進室長 松崎 恵</p> <p>8 豊島区治安対策担当課長 居原 豊</p> <p>9 豊島区男女平等推進センター所長 小椋 瑞穂</p>
配布資料	<p>資料1 豊島区外傷サーベイランス委員会委員名簿(2015年7月現在)</p> <p>資料2 外傷サーベイランス委員会の役割</p> <p>資料3 SC活動におけるデータ収集の状況</p> <p>資料4-1 繁華街の安全対策委員会[成果指標]</p> <p>資料4-2 繁華街の安全対策委員会</p> <p style="padding-left: 40px;">平成26年度までの取り組みの成果</p> <p style="padding-left: 40px;">平成27年度の主な取り組み</p> <p>資料5-1 ドメスティック・バイオレンスの防止[成果指標]</p> <p>資料5-2 ドメスティック・バイオレンスの防止に向けた取り組み</p> <p>当日配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁華街における客引き対策 ・危険ドラッグ撲滅対策について(豊島区) ・豊島区祭り見物五則

議事要旨

議事 1

(セーフコミュニティ推進室長より説明)

専門委員: 豊島区のセーフコミュニティ(SC)に対する取組みは十分だが、住民への周知が課題とされている。今後アンケートなどでどのように反映していくのか。

説明者: アンケート実施時には各対策委員会と協議し、SCの目的に沿った質問項目を設けるようにしている。区民意識調査では認証取得時よりもSCに係る認知度に低い結果が出ており、今後は、広報紙・ホームページなどの活用で情報発信を強化していく。

専門委員: 救急搬送データは外国籍の人の識別をしているのか。

委員: 救急隊による人命救助に国籍は無関係のため、救急搬送をはじめ、交通事故など国籍に係るデータは取られていない。なお、エボラ・MARSといった疾患の患者の場合は、救急搬送先の医療機関から求められた際に、当該患者の国籍情報を確認・提供することになる。

専門委員: SCの取組みについて、その効果をデータから判断するのは難しい。取組みを評価するためのデータ収集を、一定期間でも実施できると良い。具体的には、高齢者向けサロンに参加した高齢者は、出歩くことで足腰が鍛えられ間接的に外傷予防にもつながると思われるため、サロンに参加する人とならない人で分けた調査を行い、両者の転倒率を比較するなどの追跡調査をすることが考えられる。

専門委員: 今あるデータを使い、数字が変わらなくても質的なものを積み上げていく事も重要である。

議題 2

(治安対策担当課長より説明)

専門委員: (「繁華街の安全」に関する) 長期の成果指標は一見すると数値が悪化しているように見えるが、内容の説明と人口増加の要因が分かると悪化ではないと理解できるので、データに対しての情報提供が重要。母体となる件数の変化も合わせて調査する必要があると思われる。

また危険ドラッグについて、店舗がゼロになった事は大きな成果だと思う。さらに外的ダメージが減ったなどのデータは取れるのか。

説明者:危険ドラッグは違法行為であり、その数値を把握することは非常に難しい。また、119番では薬物などで分類されれば把握可能だが、精神錯乱に分類されてしまう場合もある。

専門委員:危険ドラッグはインターネットでの販売も問題になっているが、区として何か対策はあるのか。

専門委員:区に対応としてエリア上の限定があるので、数値の把握に全国ひいては世界展開となるネットまで手を広げると難しくなる。区としての線引きが大切で、店舗数の把握など環境的区分で最終的な数値を取るといった割り切りが必要。なお、大きな事件があった場合は、個別に対応する事が現実的と思われる。

説明者:短中期の成果指標について伺いたい。客引きに関する苦情件数が増えているが、警察官を街頭に配置するなど一生懸命活動をすればするほど数値が悪化する傾向がある。どう考えればよいか。

専門委員:DV相談や自殺相談と同様で、認識が高まると把握される数値も上がる傾向にあり、取組みに力を注いだ結果件数が増えるのであれば、それはむしろ改善と言える。また、数値が上がる要因としては、人口の増加や会社の誘致、来街者の増加などがあるので、母体となる数値についても把握する必要がある。

苦情等の件数よりも実際にケガをしたかどうかが重要。課題の把握のために、件数を把握していれば良いと思われる。

専門委員:短中期成果指標の「②池袋繁華街地区の安心感」についてだが、これは誰に対してどのような質問をしているのか。

説明者:来街者ではない住民に対して、「繁華街を歩いていて怖いですか」などの設問を18歳以上の5,000人を対象に実施しており、2択の回答内容である。

専門委員:回答は2択ではなく、3択にした方が良い。また、質問の仕方を「危ないと感じたことはありますか?」というような逆からの視点に変え、危険を感じた理由も聞いたほうが改善にもつながり易いと考えている。

なお、繁華街でも昼間若しくは夜間など利用する人の時間帯によっても感じ方が変わってくるので、アンケートも時間軸で分けたほうが良いのではないかと。

議題3

(男女平等推進センター所長より説明)

専門委員: 成果指標に使われている DV の防止に関するアンケートの対象はだれか。また中学生への啓発に対してどのような反応があるのか。

説明者: 対象は、住民意識調査として 20 歳以上 1,500 名(男 750 名、女 750 名)の無作為抽出としている。また中学校の結果報告から、暴力とは思わなかった事が実は暴力だったことがわかったとか、友達がいじめにあったら自分も助けてあげたいなど中学生でも色々と感じている印象を受けた。

専門委員: DV 防止対策について、海外の審査員からは加害者への対応はどうするのかというコメントが多く、成果指標にも盛り込んだ方が良いと思われるがどうか。

説明者: 連絡会議でも加害者更生プログラムの話は出ている。また配偶者等暴力防止基本計画の策定に向け、DV に関連している職員のワーキンググループを設置した。加害者に対し区独自で対応できるのか、警察や民間 NPO の協力が必要か検討していきたい。

専門委員: 他の自治体が実施したアンケートで、「DVに遭遇したときの相談先」として「行政」を選択した回答は1%であった。相談の認知度や間口を広げるような視点があれば聞きたい。

説明者: 相談できる場所を知ってもらうために「DV相談カード」を医療機関や区施設に設置し、商業施設にも置いてもらえるようアプローチしている。

専門委員: DV 被害者及び DV 加害者に対する措置については、医療機関へつなぐことが重要だ。また、日本での DV 加害者へのアプローチは専門の精神科医もいるがこれからという状況である。

なおDV被害案件では、経済面での依存などを理由に被害女性が加害男性から別れられないケースがある。女性に対する職業訓練の実施や、自分の将来の設計を考えるとといった支援がDV被害解消に有効と考えられる。

相談内容について、DV被害の程度を分類して集計すると良い。かなりひどい状態の相談がどれくらい変化しているのか、若しくは、DV なのか微妙な相談がむしろ増えているのかなどの流れが見えやすくなる。